

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一9:19～27「すべて福音のために」

[19-22]「私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようにになりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。律法を持たない人々に対しては、一私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが一律法を持たない者のようにになりました。それは律法を持たない人々を獲得するためです。弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです」

パウロは一人でも多くのたましいを獲得するために人々の奴隷となったという。これは仕える者となったという意味。偉ぶるのではなく、逆に相手の土俵に入って行って同じ状態となり導くのである。彼は相手と同じ思い、喜び、悲しみ、問題を分かち合い、すべての人に対してすべてのものとなってその魂を獲得しようとしている。[23]「私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みとともに受ける者となるためなのです」

ここにパウロの福音に生きる姿勢が凝縮されている。彼が福音の働きのためにあらゆる努力をし、それに専念しているのは彼自身も福音の恵みとともに受ける者となるためであった。彼は自分自身も他の人々とともに神の恵みにあずからなければならない罪人としての自覚を忘れることはない。この恵みによって人は永遠の滅びから救いに入れられ、神の子とされ、永遠のいのちをいただき、新しい者とされるのである。

[24-25]「競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです」

ここからは彼はスポーツを例にとりて教えている。コリントでは二年に一度、スポーツの大きな祭典が行われていた。当時は各競技で賞を受けるのはただ一人、優勝者だけであった。そしてその優勝の冠は松葉を編んで作ったものであった。そういう朽ちる冠を受けるために選手があらゆることについて自制するのならば、神からの朽ちない冠を受けるために私たちはもっと自制し励まなければならない。

[26-27]「ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしていません。私は自分のからだを打ちたたいて従わせません。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです」

マラソンをする者はゴールを目指して走る。ボクシングをする者は相手をめがけてパンチを放つ。もしゴールと違うところを向いて走っていたり、空気を打ったりしているならば全く時間の無駄で、勝負は火を見るより明らかである。クリスチャンとして歩む道は安易な道ではない。失望、誘惑、高慢、怠惰、私たちが信仰の道から引きずり落とそ

うとあらゆるものが機会を狙っている。パウロは福音伝道者として、他の人に宣べ伝えておきながら自分自身が失格者とならないように厳しく自制し、目標を目ざして走り、自分のからだを打ちたたいてでも励んでいる。私たちも朽ちない冠を受けるために、みことばに堅く立って信仰の道を走り続け、時には自分のからだを打ちたたいてでも従わせ、この世のまわりつく罪に打ち勝ち、キリストのしもべとして何とかして一人でも多くの人々を救いに導き、最後まで信仰生活を全うする者になりたい。

最後に→ピリピ3:13~14